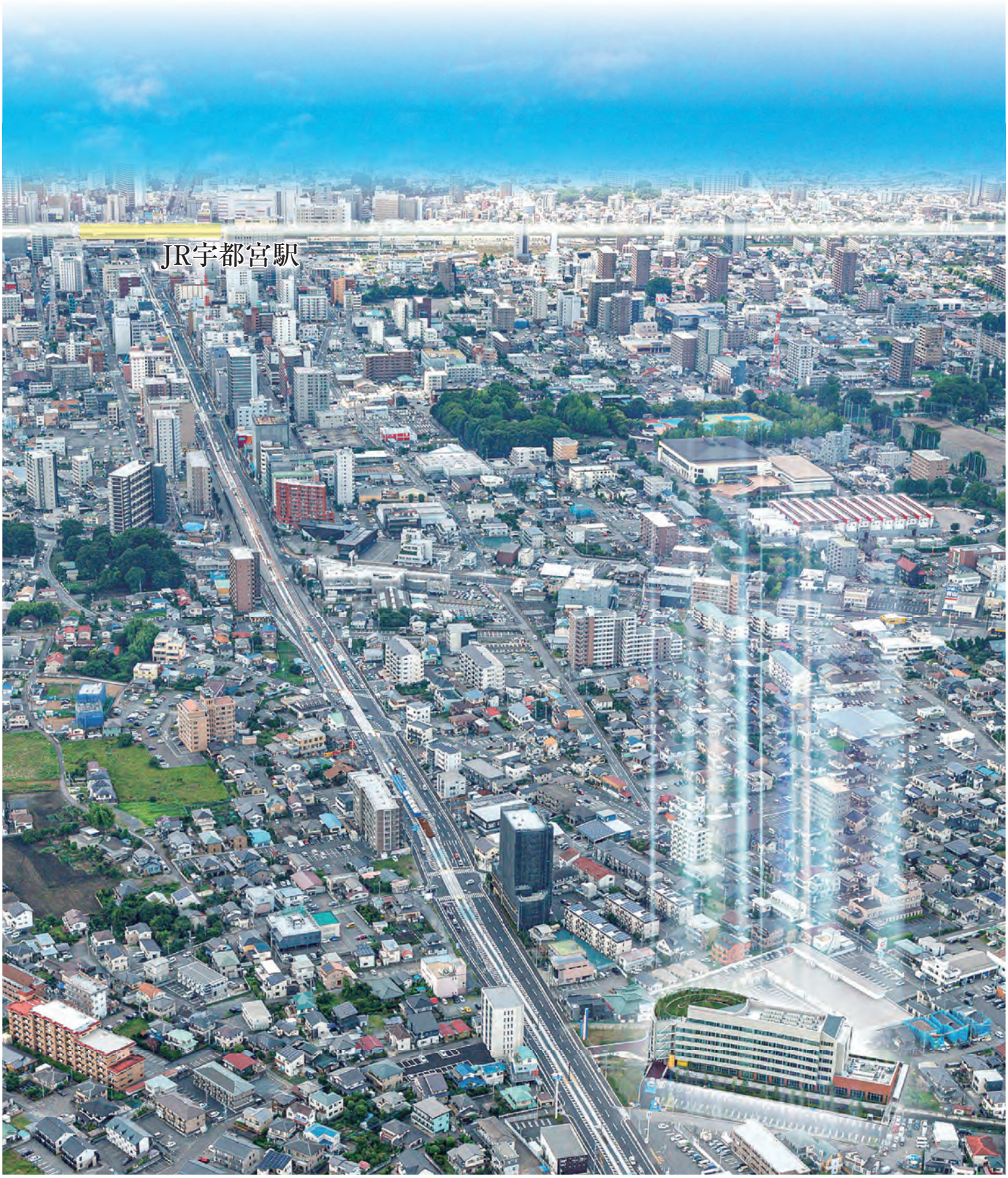
一般社団法人 巨樹の会

新宇都宮リハビリテーション病院

病 院 案 内



基本理念

回復期リハビリテーション病棟とは

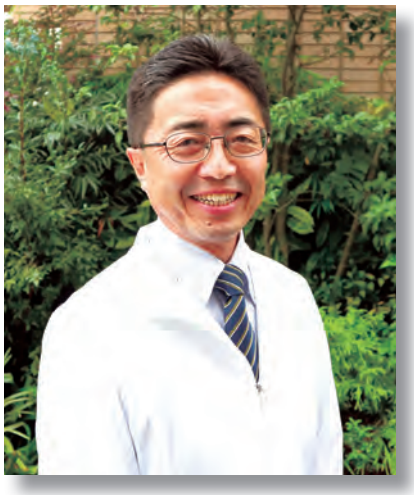
脳血管疾患や骨折の手術などのため急性期病院で治療を受けて、病状が安定し始めた状態を回復期といいます。この回復期といわれる時期に集中的なリハビリテーションを行い、低下した能力を再び獲得するための治療を行う病棟を「回復期リハビリテーション病棟」と言います。

当院は、回復期対象の患者さまに対して、身体機能の回復や日常生活で必要な動作の改善を図り、寝たきり防止と社会や家庭への復帰を目的としています。

患者さま一人ひとりに合わせてカスタマイズしたリハビリテーションプログラムを組み、そのプログラムに基づき、医師・看護師・看護補助者・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・社会福祉士・薬剤師・管理栄養士・事務職員等が共同で集中的なリハビリテーションを提供いたします。

院長挨拶

令和４年９月に新宇都宮リハビリテーション病院として新しく生まれ変わりました



新宇都宮リハビリテーション病院
院長　佐藤 道哉

PROFILE
昭和62年　防衛医科大学校医学科　卒業
平成8年　防衛医科大学校医学研究科　卒業
平成13年　防衛医科大学校耳鼻咽喉科学講座兼務講師
平成21年　自衛隊大湊病院　院長
平成23年　海上自衛隊潜水医学実験隊　司令
平成26年　防衛省海上幕僚監部　首席衛生官
平成29年　自衛隊中央病院　副院長
令和2年　第2宇都宮リハビリテーション病院　副院長
令和3年　第2宇都宮リハビリテーション病院院長に就任

資　格　日本耳鼻咽喉科学会専門医
日本気管食道科学会専門医
医学博士

一般社団法人巨樹の会は、令和２年10月に第２宇都宮リハビリテーション病院を開院し、在宅復帰を目標に、医療療養型病棟においてリハビリテーションを積極的に提供してまいりました。

また、令和３年５月からは、急性期治療終了後の患者さまにリハビリテーション医療を提供するために、病棟を順次回復期リハビリテーション病棟に転換し、幅広い要望にお応えできる体制を構築してきました。そして、多くの医療関係者、患者さまのご理解ご協力を得て、高い在宅復帰率を確保してまいりました。

さらに、宇都宮市内のみならず北関東の皆さまにリハビリテーション医療を提供できるように、令和４年９月には宇都宮駅東口側の鬼怒通り（東今泉）に新病院を建設しました。

今後も地域社会に貢献し、質の高い医療を提供するために、職員一丸となって取り組んでまいりますので、引き続きのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新宇都宮リハビリテーション病院の特徴

真心をこめた看護とチーム医療で患者

在宅復帰・社会復帰のお手伝いをいたします。

当院では、チーム医療で患者さまとそのご家族を支えます。

各分野のスペシャリストが施設内に揃うことで、「リハビリテーションだけ」「治療だけ」ではなく、入院してから在宅復帰・社会復帰を実現するまで、段階に合わせた適切なサポートを行います。

医　師

チーム医療の要として、患者さまをサポート。患者さま一人ひとりの状態を細かに把握し、入院中の医学的な管理を行います。

歯科医師

虫歯・歯周病・義歯による口腔機能の低下を改善することで、全身の栄養状態の改善、リハビリ訓練効果の向上をはかります。

看護師

「24時間リハビリ」の考えのもと、患者さまに寄り添いながら、看護師がしっかり関わっていく「リハビリテーション看護」を実施します。

看護補助者

食事・入浴・排泄などの入院生活全般に直接的に関わります。ご家族へ介護・介助に関する知識や技術のサポートも行います。

理学療法士（PT）

運動能力の低下を改善し、起き上がる、立ち上がる、歩くといった基本動作の回復と筋力回復を目指したリハビリを行います。

作業療法士（OT）

道具を使った手先の訓練と、着替え、入浴や家事など日常生活の訓練のほか、職場復帰に必要な訓練や、趣味活動のリハビリを行います。

言語聴覚士（ST）

脳の損傷などによって、話すことや聴くこと、読み書きができなくなったり、飲食物をうまく飲み込めなくなった障害に対してリハビリを行います。

管理栄養士

栄養バランスの整った食事を提供し、入院生活を支えます。また患者さまやご家族に栄養指導などを実施し、退院後の食事への不安解消にも心がけます。

薬剤師

投与量や副作用、薬同士や食事との飲み合わせに注意を払い、安全かつ確実に調剤を行います。医師はもちろん多職種と連携して薬物療法全般をサポートします。

社会福祉士

ご家族と密に連携を取り、退院後の社会福祉制度や各種サービスの紹介、諸手続きのサポートなど、在宅・社会復帰に向けて幅広く対応します。

事　務

保険証の確認、会計など、患者さまの入退院に関する対応を行います。また、環境整備、院内の補修等、様々な業務を行っています。

さまを24時間365日サポート

カンファレンス

医師、看護師をはじめ、各分野の専門家がチーム体制で患者さまを支えます。カンファレンスを密に行い、日々の小さな変化にいち早く気付き、情報を共有することで、安全かつ早期の退院支援を行っています。

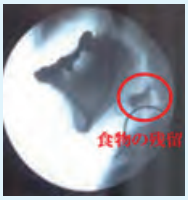
栄養サポートチーム（NST）

NST（Nutrition Support Team, 栄養サポートチーム）とは、患者さまに最適の栄養管理を提供するために、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、言語聴覚士、歯科医師、歯科衛生士などで構成された医療チームのことです。

NSTは、病気や手術のために十分な食事が取れない患者さまに最も適切な栄養補給方法や、病気の回復や合併症の予防に有用な栄養管理方法の提案などを行っています。

摂食嚥下サポートチーム

嚥下造影検査（VF）
造影剤を使用し、X線透視下にて嚥下状態を観察する検査



嚥下内視鏡検査（VE）
鼻咽腔喉頭ファイバー（内視鏡）を挿入して、直視下で嚥下状態を観察する検査

脳血管障害（脳梗塞や脳出血）、頭頸部癌の術後、加齢による筋力低下などにより、経口で十分に栄養を摂ることが難しい、摂食嚥下（せっしょくえんげ）障害の患者さまに対応しています。

当院では豊富な知識と経験を持つ医師・看護師・言語聴覚士・管理栄養士がチームとなり、摂食嚥下障害の回復に積極的に取り組んでおり、経管栄養、胃瘻やCV（中心静脈栄養）で栄養を摂られている方もお引き受けしています。

褥瘡ケアチーム

褥瘡（じょくそう）とは、一般に言う「床ずれ」のことで、寝たきりなどによって体重で圧迫されている場所の血流が悪くなった結果、皮膚の一部が赤い色味をおびたり、傷ができてしまうことを言います。

当院では週に3回の入浴を実施し、患者さまの保清と褥瘡の早期発見に努めています。褥瘡ラウンドを月2回行い、適切な治療方針の指示により院内の褥瘡対策を支援しています。

診療部紹介

専門分野での経験も豊富な医師が総合的に全身管理を行います。

急性期疾患の治療後に、早期に積極的なリハビリテーションを行うことは、退院後の日常生活や社会復帰に効果的であることがわかっております。そのため、急性期病院（救急病院、総合病院、大学病院など）での治療後、積極的なリハビリテーションを受けるための医療機関として、回復期リハビリテーション病院があります。

また、回復期リハビリテーション病院では、日常生活や社会復帰に必要な能力の向上を目標に積極的なリハビリテーションを行いますが、そのためには全身管理が重要であることもわかっております。

当院では、リハビリテーション以外の専門分野での経験も持つ医師グループが総合的に患者さまの全身管理を行ない、リハビリテーションを行っております。

病棟処置の様子

医師回診の様子

専門分野一覧	
病院長	耳鼻咽喉科
副院長	泌尿器科
副院長	外科
医　員	循環器内科
医　員	外科
医　員	消化器内科
医　員	皮膚科
医　員	耳鼻咽喉科
医　員	神経内科

医師紹介

副院長
山口 圭一

リハビリ医療と泌尿器科医の関わり

リハビリテーション病院には脳血管障害、整形外科手術後の患者さま、癌などの消耗性疾患からの廃用症候群の患者さまが入院されます。

強度の排尿障害や、移動困難で、寝たきりの患者さまは尿排泄の壁が生じます。その際一般的には、尿道に管（カテーテル）を入れて管理します。そうすれば腎臓に負担がかからず、腎機能障害、尿路の感染予防にも効果的です。定期的な管交換、新規の管挿入で困ったときは泌尿器医の出番です。また脳血管障害の患者さまは血液が固まりにくいお薬を内服しているため、簡単に血尿を生じることがありますが、この処置も泌尿器医がいれば安心です。

しかし、管のお世話にはなりたくない患者さまも多いのが現状です。最近は、排尿改善や尿漏れ治療薬の躍進的な進歩で、副作用も少なく、尿の悩みも少なく、管なしで元気にリハビリに取り組んでおられる患者さまが増えていることは、我々には大変うれしい限りです。

専門	泌尿器科

資格	泌尿器科専門医・日本医師会スポーツ医・産業医

副院長
宇都宮 勝之

リハビリ医療と外科医の関わり

診療部紹介にもありますように、リハビリテーションを受けていただくためには全身管理が重要です。患者さまのなかには経口で食事を摂取することができず、胃瘻が造設されている方や中心静脈栄養の方がいらっしゃいます。また交通外傷による腹腔内損傷などで人工肛門が造設されている方もいらっしゃいます。外科経験の乏しい医師には胃瘻の交換や中心静脈栄養管理そして人工肛門管理などが難しく感じられるのですが、逆に外科医にとっては得意な分野です。

回復期リハビリテーション病院に外科経験の豊富な医師が必要とされていると感じております。

専門	外科

資格	外科専門医・大腸肛門病専門医・消化器外科認定医・乳腺認定医・医学博士

歯科紹介

おいしく食べることは、健康の回復及び維持にとって非常に重要です。

歯科医師
近藤 圭祐

歯が痛い、歯が無い、または入れ歯が合っていない、そんな状態では食べ物をうまく噛み砕くことができません。また、口の中が汚れていたり乾燥していると、食べ物や唾液を口の中でうまくまとめて飲み込むことができません。われわれは、このような口腔機能の低下（口腔機能低下症）を改善することで、全身の栄養状態の改善、更には、全身のリハビリ効果の向上に対し、退院後の安定した栄養摂取も見据えて貢献して行きたいと考えています。

専門	口腔外科

資格	口腔外科専門医・有病者歯科医療専門医 小児口腔外科認定医・スポーツ歯科医学認定医・医学博士

歯科の取り組み

虫歯・歯周病及び義歯の治療、要抜去歯の抜歯、口腔カンジダ症などの口腔粘膜炎の治療を行います。病院内には歯科診療室が設けられており、そちらでの治療に加えて、歯科衛生士が病室に伺い、口腔ケアを行います。また、口腔機能低下症の評価を行い必要に応じて口腔内リハビリテーションを行います。

口腔水分計（ムーカス）
口腔粘膜の湿度から唾液の分泌量を測定します。

舌圧測定器
摂食嚥下に必要な舌圧の評価を行います。

医療機器紹介

患者さまに適切な治療を行えるよう、様々な医療機器を備えています。

CT

X線TV装置

歯科パノラマ撮影装置

リハビリテーション科紹介

当院におけるリハビリテーションの役

患者さまの体調に合わせ一日最大３時間のリハビリテーションを提供し、少しでも早く離床を促し活動できるようサポートします。平日のみではなく、土・日・祝日もリハビリテーションを提供します。

医療技術部長 兼 リハビリテーション科課長
岩瀬 直樹

理学療法

PT（Physical Therapy　フィジカル・セラピー）

理学療法では、寝返りや起き上がり、座る、立つ、歩くなどの日常生活を行う上で基本となる動作の安定と、移動手段の獲得に向けてリハビリテーションを行っています。

また、温熱・光線・電気などを用いた治療や、マシーンを使ったトレーニングで、社会復帰に必要な体力面の強化を行います。

関節可動域訓練

歩行訓練

装具を使った訓練

作業療法

OT（Occupational Therapy　オキュペイショナル・セラピー）

作業療法では、着替えや歯磨き、箸やスプーンを使うといった訓練をはじめ、必要に応じて掃除、洗濯、調理といった生活動作の自立に向けて訓練を行います。

家事動作や職場復帰のために必要な訓練、および、園芸、書道、折り紙やゲームなどのレクリエーションや、趣味を取り入れた活動を通じて、手の操作性や注意力の回復を目指します。

指先を使った作業活動訓練の一例

生活動作訓練の一例

言語聴覚療法

ST（Speech Therapy　スピーチ・セラピー）

言語聴覚療法では、脳損傷などにより生じた言語や聴覚、嚥下（飲み込み）機能の低下に対し、訓練を行います。

機器を使用したり、またはジェスチャーや描画などによって他者とコミュニケーションをとれるよう訓練を行います。

飲み込みに障害がある方には食事をより安全に、よりおいしく、そして楽しく食べられるよう、摂食機能の回復と維持を図ります。

言語訓練

嚥下訓練

高次脳機能訓練

割と取り組みについて

リハビリテーション科の様々な取り組み

訪問リハビリテーション

退院後、訪問リハビリ専門の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がご自宅にお伺いし、生活に密着した、自分らしい生活を送るためのリハビリです。そのため、ご自宅内だけではなく屋外を含め、生活圏内でのリハビリテーションも行っています。

外出訓練・屋外歩行訓練

屋外歩行や外出訓練を行うことで、散歩や買い物、旅行など、退院後の生活範囲を広げることができます。退院後に充実した生活が送れるように、患者さま一人ひとりに合わせたリハビリを行っています。

家屋調査

退院前にスタッフが一緒にご自宅に伺い、改修工事や補助具の取り付け、各種保険の申請など、退院後にスムーズな生活が送れるようにアドバイスさせていただきます。また、ご自宅の段差に合わせた訓練など、調査結果を日々の訓練にも取り入れます。

訓練機器のご紹介

様々な疾患に対して必要な訓練機器を使用し、患者さま一人ひとりの目的に合わせたリハビリテーションを提供しています。

免荷式歩行リフトPOPO

身体を吊り上げることで、足にかかる体重負荷を減らすことにより、筋力低下に伴い体を支えられない方や足の痛みが強い方に対して、早期歩行練習が可能になります。

荷重制限中の患者さまも歩行訓練が行えます。

ドライブシミュレーター

運転には周囲への注意能力や素早い判断力、ハンドル・ブレーキ操作を行う手足の円滑な動きが重要です。脳梗塞や脳出血に伴う高次脳機能障害（注意力や集中力の低下）は、運転再開に対して障壁となります。そのため、運転再開に向けた支援の一つとして、ドライブシミュレーターによる運転評価を行います。

シミュレーションルーム

退院後の自宅環境・自宅内生活を想定し、シミュレーションルームを使用して、より実践的なリハビリを行います。

また、ご家族様にも一緒に参加していただき、介助体験や介助方法などの指導をさせていただきます。

ジェントルスティム

干渉波刺激による痛みが少ないことが特徴で、電気刺激が苦手な患者さまにも、安心して治療を受けていただけます。首の両側に張り付けたパッドが嚥下関連神経を刺激することによって、飲み込みが起こりやすくなり、嚥下機能の回復に役立ちます。

看護部紹介

24時間体制でサポートする回復期看護

病棟で過ごす24時間が、「すべてリハビリ」ととらえ、「訓練の中でできるようになった動作」が、「常にできる動作」となるよう、看護師と看護補助者がサポートしています。

離床活動や社会交流を病棟の中でできる環境づくりも重要なポイントです。ご家族の精神的なフォローアップなども含め、安心・安全な入院生活の援助と、スムーズに退院ができるように支援をしています。

看護部長
関 三津子

体調管理

毎日リハビリができる体調管理が最も重要です。入院中の事故を防ぎ、睡眠・排泄リズム、食事の摂取状態、体調の変化、褥瘡などの有無、転倒のリスクなどを、常に観察しています。

バイタルサイン測定

毎日体温・血圧・脈拍などのチェックを行い、体調の変化がないか確認します。

水分補給

リハビリ後の水分補給は大切です。飲み込みがうまくできない場合は隣でサポートします。

社会交流

ベッド上での生活を極力避けて、デイルームなどで参加していただくレクリエーションを企画しています。病棟生活の中でいかに活動量を増やしていけるかが、在宅復帰への鍵になっています。

レクリエーション活動

訓練時間以外にも楽しく取り組める活動を行っています。

精神的サポート

状況を受け入れられずに悩まれる患者さまもいらっしゃいます。日々の看護において、このような悩みを乗り越えるための精神的な支援として、患者さまの日常の観察や状況に応じた声かけが重要です。

毎日のコミュニケーション

患者さまに話しかけ、様子をうかがうことも重要です。

の役割

日常生活介助

訓練でできるようになった、歩行・身支度・入浴・トイレなどの動作を、病棟で日常的に継続していけるよう、看護師や看護補助者が積極的にサポートしています。

ベッド移乗
事故やケガがないよう、患者さまの状態に合わせてサポートします。

着替え見守り
着替えが一人でできるように「時間がかかっても見守る」看護も大切です。

食事介助
必要に応じて食事の動作をサポートします。

口腔ケア
肺炎予防のために口腔ケアは重要です。

トイレ介助
夜間でも患者さまの状態に応じてトイレの介助を行い、1日でも早くオムツがはずせるよう援助しています。

オムツマイスター制度導入

令和3年度より、看護師、介護福祉士、看護補助者、計9名がオムツマイスター認定資格を取得し活躍しています。主に現場での指導を行っており、回復期における在宅での紙おむつの基本的な当て方など、個々に合わせた指導をスタッフ及び患者さまの家族へアドバイスをしています。

家族介護指導

自宅での生活を想定して、ご家族に対してオムツ交換・吸引などの指導を行っています。不安なく退院が迎えられるように全力でサポートします。

排泄自立の取り組み

トイレで排泄することは、重要な生活の一部であり、人としての尊厳を守るための重要な要素の一つです。オムツの有無で、家族の負担も大きく違ってくるため、当院では極力オムツを使用せず、トイレでの排泄を促しています。

栄養科紹介

個々の状態に寄り添った栄養サポート

栄養科では、入院から退院まで管理栄養士が患者さま一人ひとりのリハビリ内容に沿った食事の提供をしています。また、栄養状態や口腔内の環境、咀嚼・嚥下機能に合わせた安心で安全な食事の提供をします。

特別に重点的な栄養管理の必要な患者さまに対しては、多職種からなるNST（栄養サポートチーム）での回診も行っています。

また、退院後に自宅でどのような食事を摂ったら良いかなど、ご家族を含めた栄養指導も行い、退院してからの食事にも寄り添ったサポートをしています。

入院中の食事内容

医師の指示に基づき、患者さま個々の状態に合わせた食事を提供させていただきます。

制限のない一般食はもちろん、治療食（減塩食、たんぱく質コントロール食など）の形態（きざみ、ペーストなど）の調整、病状に合わせた食事量や栄養補助食品の追加などを行っています。

温冷配膳車を導入し、
冷菜は冷たく、
温菜は温かいままで
提供しています。

行事食

栄養面を考慮するのはもちろんですが、入院生活の中で、食事を楽しみにしていただくために、季節ごとの行事食や、旬の食材を取り入れた季節感のある食事を提供しています。

薬剤科紹介

最大限の効果が発揮できるよう薬を調整

薬剤科では、常勤薬剤師3名と薬剤科事務1名が勤務し、患者さまの入院中はもちろん、退院後も安心して薬物療法を受けていただけるように取り組んでいます。

チーム医療における薬の専門家として、最小限の薬で安全かつ最大の効果を得られるよう心がけ、薬の適正使用に努めています。

全自動錠剤散薬分包機

新宇都宮リハビリテーション病院では、新しい全自動錠剤散薬分包機を導入しました。分包機の特徴としては、IF機能（錠剤カセット誤挿入防止機能）と錠剤コンベアLEDガイドがあることです。これらの機能によってカセットへの入れ間違いの防止と、誤調剤の防止に繋がります。

服薬指導

退院後に自宅へ帰る患者さまが多い当院では、自宅へ帰った後もきちんとお薬が服用できるように看護部と協力しながら服薬指導を実施しています。自宅に帰った後も飲み忘れなどが起こらないように服薬指導を通じてヒアリングし、問題点を入院中に改善できるように努めることは病院薬剤師として大切な業務のひとつです。

患者さまの一日の流れの例

一人ひとりに最適なプログラム

当院では入院中、良質な睡眠と、日中の安全なリハビリテーション活動に向け、規則正しい生活を送っていただけるよう、個々に合わせたプログラムを作成し、専任のスタッフによるリハビリテーションを実施します。

実際にどのような生活を送っていただくのか、一日の流れの例をご紹介します。

赤文字の中で、患者さま一人ひとりに合わせた1日最大3時間のリハビリテーション訓練が組まれます。

	6:00	起床	
	7:00	身じたく	日常生活動作自立に向け、整容・更衣・排泄動作の訓練・歩行訓練
	8:00	朝食	食事動作訓練
	8:30	身じたく バイタルサイン測定	口腔ケア・整容・更衣・排泄動作の訓練 体温・血圧・脈拍などのチェック
午前のリハビリテーション開始	8:40	離床活動 個別リハビリテーション	◆立位・歩行訓練 ◆外出訓練（屋外歩行、買い物訓練など） ◆義肢装具士・リハビリスタッフと靴や装具の検討 ◆福祉用具業者・リハビリスタッフと車椅子やクッション等の評価・選定　など
	10:00	入浴（9:00〜16:00）週３回	患者さまの状態に合わせ、機械浴またはシャワー浴にて入浴
	11:00	体操	離床活動の一環として個別リハビリテーションの間に病棟デイルームにて実施
	12:00	昼食	言語聴覚士を中心として食事動作訓練
	12:30	身じたく バイタルサイン測定	口腔ケア・整容・排泄動作の訓練 体温・血圧・脈拍などのチェック
午後のリハビリテーション開始	13:00	個別リハビリテーション	◆立位・歩行訓練 ◆炊事・洗濯・掃除等の応用動作訓練 ◆装具等を用いた動作訓練　など
	15:00	レクリエーション	離床活動の一環として病棟デイルームにて実施
	15:30	面談	月に一度、患者さま・ご家族さま、医師・看護師・リハビリスタッフ・社会福祉士で、現状の確認と、今後についての話し合い
	18:00	夕食	自助具・福祉用具を用いた個別介入
	18:30	身じたく	日常生活動作自立に向け、整容・更衣・排泄動作の訓練
	21:00	消灯	

医療連携室について

入院・退院についてのご案内

入院までの流れ

入院相談窓口

●新宇都宮リハビリテーション病院**医療連携室**へ
ご連絡ください。

TEL：028-666-7411

受付時間　午前9時～午後　4時（月～金曜日）
午前9時～午後12時（土曜日）

●FAXにて書類をお送りください。

FAX：028-666-7430

- **診療情報提供書**
- **入院申込書及びADL表**
- **検査データ**

※入院申込書は当院ホームページより
ダウンロードできます。

当院ホームページ：
https://shin-utsunomiya.jp/

当院
ホームページ

入院決定のお知らせ

入院当日

●入院日にご持参いただくもの

□**医療証一式（医療保険証、限度額適用認定証、公費負担医療受給者証）**

□**診療情報提供書**　□**検査データ**

□**看護サマリー**　□**リハビリテーションサマリー**

□**退院証明書**　□**印鑑**　□**お薬**

入院から退院までの流れ

入　院

医師・リハビリスタッフ・
看護師との合同面談

治療プログラム作成

リハビリテーション開始

患者さまを中心に
定期的な面談を実施

退院に向けての公的サービスの調整と
住宅環境の整備

退　院

在宅

医療介護施設

かかりつけ医

■ 医療連携室とは

入院中にお悩み・不安を抱えた患者さまが、安心して療養生活を過ごすことができるようにサポートさせていただきます。お気軽にお声かけください。

■ 回復期病棟の対象疾患

	対　象　疾　患	入院期間
①	脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後もしくは手術後、又は義肢装着訓練を要する状態	150日
	高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頚髄損傷および頭部外傷を含む多部位外傷	180日
②	多肢の骨折、大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の骨折	90日
③	外科手術又は肺炎などの治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後	90日
④	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後	60日
⑤	股関節又は膝関節の置換術後の状態	90日
⑥	急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患又は手術後の状態	90日

Q&A よくあるご質問

Q 入院時に保証金は必要ですか？入院費用はどのくらいかかりますか？

A 保証金はいただいておりません。入院費は医療保険の内容や病室、入院中にご利用されるアメニティ・オムツなどにより異なります。

Q 駐車場はありますか？

A 駐車場は完備しております。

Q 携帯電話は使用できますか？

A 使用できますが、周囲の方にご迷惑にならないようご配慮をお願いします。

Q 売店はありますか？

A 院内にミニ売店がございます。（電子マネーでのお支払いのみ）

Q 入院の期限はありますか？

A 回復期リハビリテーション病棟は厚生労働省の基準に沿って入院期限を設けています。上記の表をご参照ください。

Q 入院中に外来受診はできますか？

A 主治医の判断により外来受診が可能となることもあります。外来受診の予約が入っている場合は、一度ご相談ください。

Q 食べ物の持ち込みはできますか？

A 衛生上の観点から持ち込みはご遠慮いただいています。
ご希望がある場合は、主治医にご相談ください。

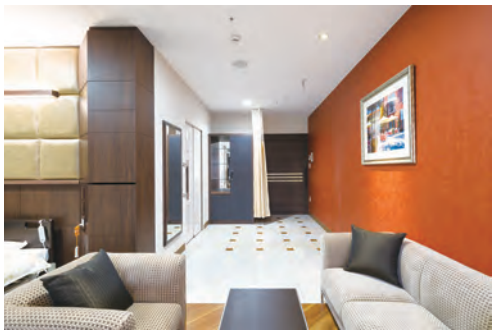
その他、ご不明な点がありましたら下記代表番号へお問い合わせください。

一般社団法人巨樹の会　新宇都宮リハビリテーション病院
電話番号：028-666-4880（代）

病室のご紹介

リラックスしてお過ごしいただけるよう、安全性と機能性を重視した過ごしやすいお部屋をご用意しました。

特別室



快適性と機能性を併せ持つバス・トイレ・洗面台付きの個室になります。収納棚・ソファー・デスクなどの家具も充実しており、快適な入院生活をお送りいただけます。

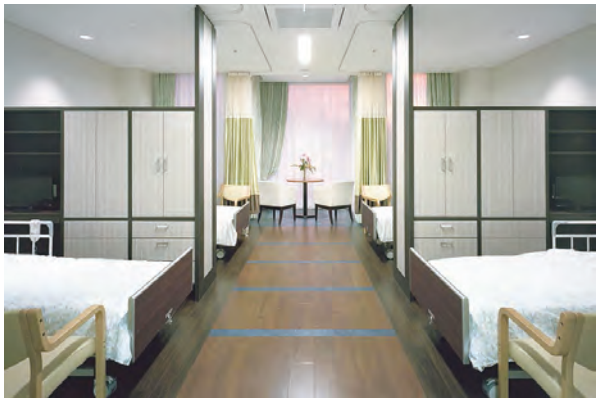
個室

タイプA

タイプB

快適にお過ごしいただけるように、収納棚・ソファー・デスクなどの家具が配置された、シャワー室の有無でタイプAとタイプBのお部屋をご用意いたしました。

多床室



2人部屋・3人部屋・4人部屋をご用意しております。ベッドの間仕切りに家具を配置し、部屋ごとに洗面台・トイレを配置することで、プライバシーの確保と利便性に配慮しました。

アメニティのご紹介

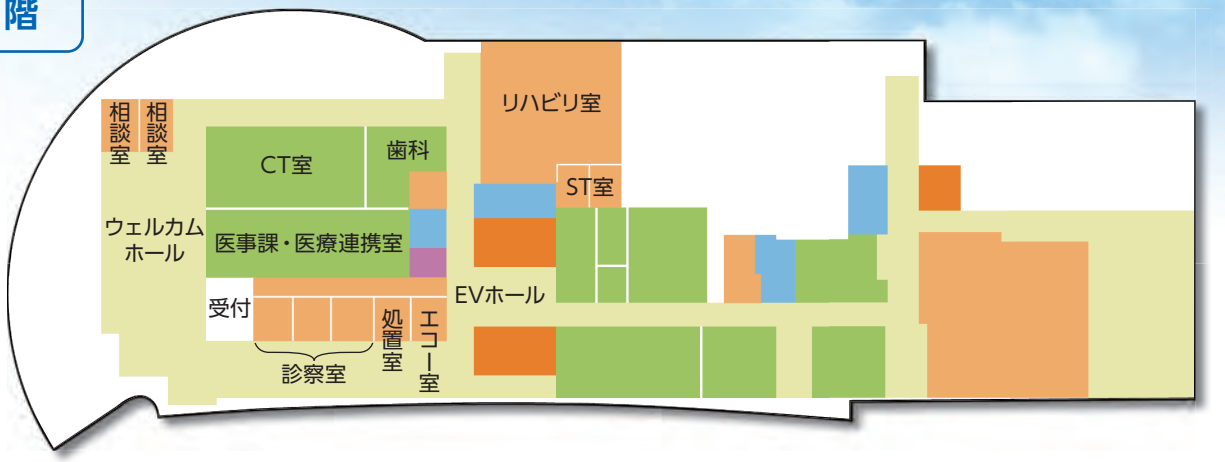
室料差額部屋については、下記のアメニティが付属しています。
室料無差額部屋でも個別にアメニティを契約することができます。入院時にご相談下さい。

室料差額部屋アメニティ	テレビ、冷蔵庫、病衣、リハビリ着、タオル

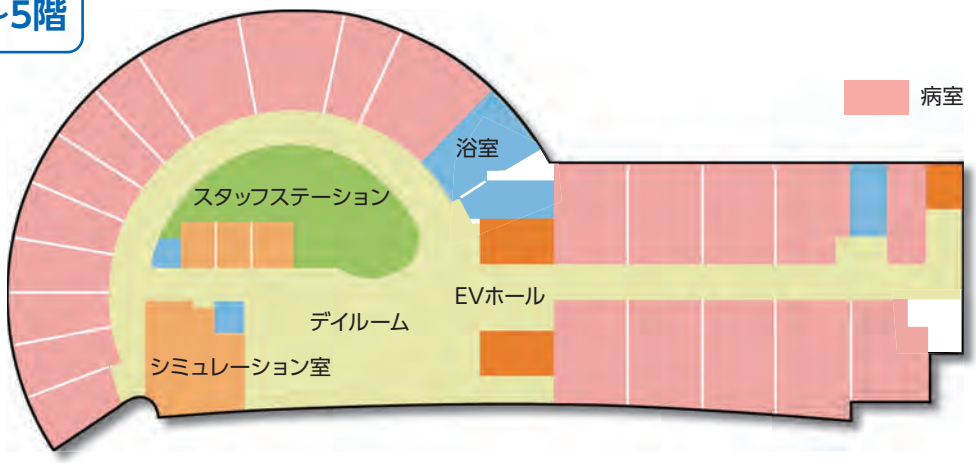
※写真はイメージです。

フロアマップ

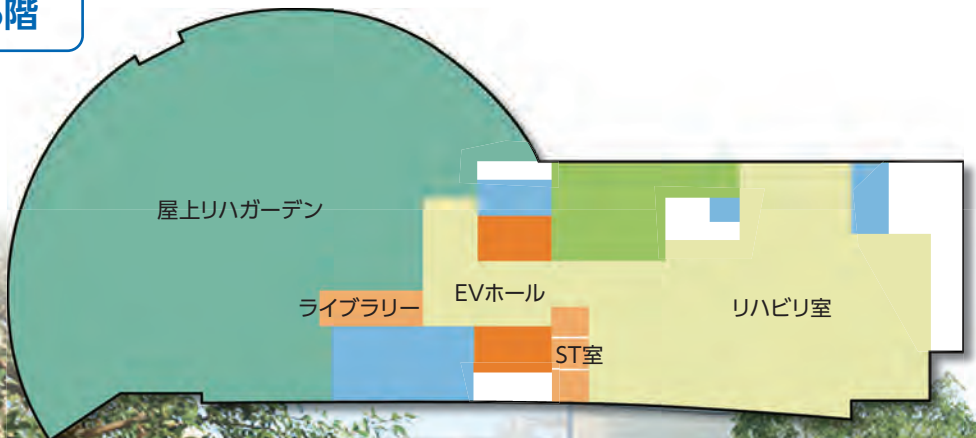
1階



2〜5階



6階



屋上リハガーデン

※写真はイメージです。

リハビリテーション室

約394.76㎡ある6階リハビリテーション室です。

歩行の距離が分かるように、カラフルなラインが目印となっています。

天井の間接照明で眩しさに配慮しています。

シミュレーション室

自宅を想定した部屋で、普段の生活環境に添った訓練も行います。

キッチンでの調理訓練や洗濯、掃除の訓練も行います。

和室での訓練もできます。

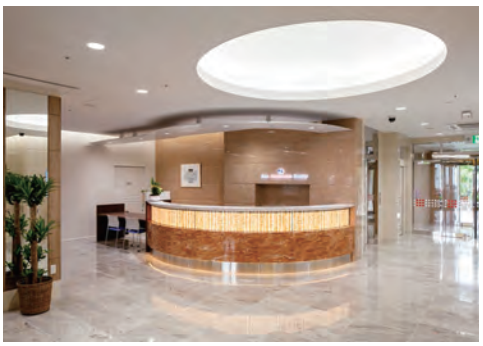
ST（言語聴覚訓練）室

各フロアに完備しています。

周囲の音を遮断し、発語訓練を行います。

言語聴覚訓練で使用する機材の一例です。

その他



1階総合受付

入館の際はこちらで受付してください。

1階ラウンジ

入院説明や面談を行います。

6階ライブラリー

明るく静かな空間で、ゆったりしたひと時をお過ごしいただけます。

※写真はイメージです。

栃木エリア3病院の連携体制

医療機関から入院相談を受けた患者さまを早期にご案内し、回復期リハビリテーションに繋げられるように、新上三川病院・宇都宮リハビリテーション病院との連携体制を整えております。患者さま・ご家族のニーズに添った入院調整を栃木3病院一丸となって取り組んでおります。入院をご希望される方は医療連携室までお問い合わせ下さい。

新宇都宮リハビリテーション病院

回復期240床

〒321-0941
栃木県宇都宮市東今泉2丁目5番31号
TEL：028-666-4880（代表）
TEL：028-666-7411（連携室直通）

ホームページ

新上三川病院

急性期・回復期209床

〒329-0611
栃木県河内郡上三川町上三川2360番地
TEL：0285-56-7111（代表）
TEL：0285-56-2028（連携室直通）

ホームページ

宇都宮リハビリテーション病院

回復期96床

〒321-0982
栃木県宇都宮市御幸ケ原町43-2
TEL：028-662-6789（代表）
TEL：028-689-6878（連携室直通）

ホームページ

グループ病院紹介

1. **福岡和白病院**
   福岡市東区和白丘2-2-75
   TEL 092-608-0001　www.f-wajirohp.jp/
2. **新小文字病院**
   北九州市門司区大里新町2-5
   TEL 093-391-1001　www.shinkomonji-hp.jp/
3. **新行橋病院**
   行橋市道場寺1411
   TEL 0930-24-8899　www.shinyukuhashihospital.or.jp/
4. **福岡新水巻病院**
   遠賀郡水巻町立屋敷1-2-1
   TEL 093-203-2220　www.f-shinmizumaki.jp/
5. **新武雄病院**
   佐賀県武雄市武雄町大字富岡12628
   TEL 0954-23-3111　www.shintakeo-hp.or.jp/
6. **香椎丘リハビリテーション病院**
   福岡市東区下原2-24-36
   TEL 092-662-3200　www.kashii-rh.net/
7. **下関リハビリテーション病院**
   山口県下関市今浦町9-6
   TEL 083-232-5811　www.shimoreha.jp/

8. **八千代リハビリテーション病院**
   千葉県八千代市米本1808
   TEL 047-488-1555　www.yachiyo-reha.com/
9. **所沢明生病院**
   埼玉県所沢市山口5095
   TEL 04-2928-9110　www.meisei-hp.jp/
10. **明生リハビリテーション病院**
    埼玉県所沢市東狭山ヶ丘4-2681-2
    TEL 04-2929-2220　www.meisei-reha.jp/
11. **新上三川病院**
    栃木県河内郡上三川町上三川2360
    TEL 0285-56-7111　www.kaminokawa-hp.jp/
12. **みどり野リハビリテーション病院**
    神奈川県大和市中央林間2-6-17
    TEL 046-271-1221　www.midorino-hp.jp/
13. **蒲田リハビリテーション病院**
    東京都大田区大森西4-14-5
    TEL 03-5767-7100　www.kamata-rh.net/
14. **宇都宮リハビリテーション病院**
    栃木県宇都宮市御幸ヶ原町43-2
    TEL 028-662-6789　www.utsunomiyarh-hp.jp/
15. **小金井リハビリテーション病院**
    東京都小金井市前原町1-3-2
    TEL 042-316-3561　www.koganei-rh.net/
16. **赤羽リハビリテーション病院**
    東京都北区赤羽西6-37-12
    TEL 03-5993-5777　www.akabane-rh.jp/
17. **松戸リハビリテーション病院**
    千葉県松戸市和名ヶ谷1009-1
    TEL 047-703-1555　www.matsudo-reha.com/
18. **千葉みなとリハビリテーション病院**
    千葉県千葉市中央区中央港1-17-18
    TEL 043-245-1555　www.minato-reha.com/
19. **原宿リハビリテーション病院**
    東京都渋谷区神宮前6-26-1
    TEL 03-3486-8333　www.harajuku-reha.com/
20. **新久喜総合病院**
    埼玉県久喜市上早見418-1
    TEL 0480-26-0033　www.shinkuki-hp.jp/
21. **江東リハビリテーション病院**
    東京都江東区北砂2-15-15
    TEL 03-6880-1555　www.koto-reha.com/
22. **東京品川病院**
    東京都品川区東大井6-3-22
    TEL 03-3764-0511　www.tokyo-shinagawa.jp/
23. **狭山中央病院**
    埼玉県狭山市富士見2-19-35
    TEL 04-2959-7111　www.sch.or.jp/
24. **新宇都宮リハビリテーション病院**
    栃木県宇都宮市東今泉2-5-31
    TEL 028-666-4880　https://shin-utsunomiya.jp/

交通案内

お車でのご来院

- 東北自動車道　宇都宮ICより約40分
- 東北自動車道　鹿沼ICより約30分
- 北関東自動車道　宇都宮上三川ICより約20分
- JR宇都宮駅東口より　鬼怒通りを進み約6分

電車でのご来院

- JR「宇都宮駅」東口　徒歩約30分
- LRT（2023年3月開業予定）「峰」または「陽東3丁目」より徒歩5分

バスでのご来院

- 関東バス　宇都宮駅東口　③番のりば
  [02] 宇大循環線（右回り）「中久保」停留所下車　徒歩2分
  [11] 新道・ベルモール・柳田車庫行き「今泉町」停留所下車　徒歩4分

病院概要

診 療 科 目　リハビリテーション科・内科・歯科
許可病床数　240床

施設基準

【基本診療料】

回復期リハビリテーション病棟入院料①
療養病棟療養環境加算①
入退院支援加算
患者サポート体制充実加算
栄養サポートチーム加算
診療録管理体制加算②
データ提出加算
入院時食事療養／生活療養（Ⅰ）

【特掲診療料】

脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
CT撮影及びMRI撮影

カマチグループ
一般社団法人 巨樹の会
新宇都宮リハビリテーション病院

〒321-0941　栃木県宇都宮市東今泉2丁目5番31号
TEL：028-666-4880（代表）　FAX：028-666-4887
Email：info@shin-utsunomiya.jp